コミュニカティブな授業における辞書指導

山岡憲史

■高度なコミュニケーションをめざす辞書活用

オーラル・コミュニケーションは，辞書の活用に最も縁遠い英語科科目であろう。英語で「コミュニケーションをしようとする態度」を育成するには，間違いを怖れず，不正確でもとにかく言葉を多く発する fluency を奨励する。一方，語の意味や用法の正確な定義や説明を記した辞書は accuracy の権化であり，コミュニケーション活動で逐一正確な情報を求めていては，fluency が滞ってしまうからだ。

しかし自信を持って英語を話せるようにさせるためには，正しく良い英語で，コミュニケーション自体をより有意義な情報の授受活動にしていかなければならない。fluency と accuracy を相反する概念であるととらえるのではなく，より正確で質の高い英語が相手の理解をいっそう促し，意義深いやりとりを可能にし，それを目指すことが同時に fluency をも伸ばすという観点が大切であると思う。この方針を徹底することにより，スピーキング力の養成を通じた総合力の育成が図れる。

■ディベートを通じて正確な表現を学ばせる

ディベートの授業では，fluency と accuracy との双方を同時に伸ばすことを目指し，その際に辞書の「権威」を存分に活用する。

Topic: Should smoking be prohibited in public places?

このテーマで学ばせたい言語材料の１つに「禁止」を表す表現がある。prohibit のほか，forbid と ban も学習させたい。命題の文を forbid と prohibit を使って言い換え，辞書で調べさせる。

Should smoking be forbidden [banned] in public places?

prohibit も含め，すべて〈行為〉を目的語に取ることができるので用法的には OK である。ここで辞書をよく読ませて ban, prohibit, forbid の意味の違いを調べさせる。『ジーニアス英和辞典 第３版』(G3) には次のようにある。

> **ban**　(法的に)禁止する(ban 動)
> **prohibit**　〈法・団体などが〉禁止する《◆個人が禁止する場合は forbid》(prohibit 動 **1**)

したがって，公共の場で「禁止する」場合は ban, prohibid がより適当である。

次に人を主語にした場合の使い方を学ばせる。

You should be banned from smoking ....
You should be forbidden to smoke ....
You should be prohibited from smoking ....

さらに forbid の項には（↔ permit, allow）とあり，これらも併せて使えるように教える。

Smoking should not be permitted [allowed] ....
You should not be permitted [allowed] to smoke ....

以上のことを周知させて意見を言わせる。生徒は最初は各語をうまく使い分けることができないが，発言の後，口頭や板書によって訂正をしながら教えると，非常に効果がある。

S: In public places, people should be forbidden from smoking, because there are many people who don't like the smoke.
T: You mean people should be forbidden to smoke in public places because it

bothers non-smokers. Right?

このようなやりとりを繰り返しながら，表現の幅を広げ，より正しい英語への意識づけをする。

■発言をもとに better English を学ばせる

辞書はただ語についての意味と用法の記述をするだけではなく，よりよい表現法や使う上での注意事項が随所に示されている。そこで，生徒の不完全な英語の価値を認めてやりながらも，きっかけをとらえて，よりよい表現や正しい使い方を教えてやる。この時にも，辞書の権威が力を発揮してくれる。

T: What's the matter, Rie?
R: I forgot my homework.
T: You mean you forgot to do your homework?
R: No. I did my homework, but my notebook is at home.
T: So you left your notebook at home.

ここで，全員に辞書を引かせて，G3 の forget の「置き忘れる」「持ってくるのを忘れる」という訳語の下の語法を読ませる。

> 語法 具体的な場所を伴う場合は leave が普通：I left [×forgot] my umbrella in my car.

生徒や教師が実際に使った英語の適否をその場で確認する作業が，より適切な英語を使えるようにするための大きなインパクトを与える。

私が大好きな記述が次にあるので，ついでに読ませてみる。

> 語法 [**I forget と I forgot**] "What was the title of the movie you saw yesterday?" "I forget [have forgotten]."《◆忘れて思い出せないときは forget または have forgotten)》/ "Did you shut the window?" "Oh, I forgot."《◆忘れていて思い出した場合は forgot》.

なお，新たな「発見」があった時は，必ずラインマーカーで学習歴を残させることを習慣づけると，学習に効果的であるだけでなく，辞書の発する情報を多角的にキャッチできるようになる。

■ function や appropriateness の情報を活用する

たとえば依頼や要請を表す表現を教えてコミュニケーション練習をさせる際，この機能を持ついくつかの表現とともに I wish you would stop talking while I'm speaking. という表現も提示する。

> ◆I wish you would ... の形式は依頼・要求・軽い命令などをを表し，不満や皮肉の気持が含まれることもある。(G3 wish 動 他 **3**)

I wish ～ が実現の可能性の少ない願望を表すという機能しか知らない生徒たちに，このような用法を知らせ，活動を通して学び取らせる。

T: Say to your partner that you'd like him/her to turn down the radio. Add a reason why you hope so.
S: (To his/her partner) I wish you would turn down the radio. I can't concentrate on reading.

appropriateness についても，辞書は有益な情報を提供してくれる。

> May I have [ask] your name, (please) (↘[↗]) = Could you tell me your name, (please) (↘[↗])《◆ What's your name? (↘) はきつく響くので避ける; ただし子供に対しては What's your name?(↗)とすることがある》(G3 name 名 **1**)

G3 には何気ないところに，コミュニケーションのための有益な情報がたくさん隠れている。

＊

辞書は一見無愛想で無口で，コミュニケーションという「元気っ子」と相容れないように見える。しかし，実はじっくり話しかければ，無数の引き出しからとっておきの秘訣を教えてくれる，人生経験豊かな長老のような存在なのである。しかもその情報は驚くほど発見に満ち新鮮である。

コミュニケーション活動を通じて，確かな英語力を身につけさせるためにも，辞書から溢れる多くの宝物に触れさせたいものである。

（やまおか　けんじ・滋賀県立草津東高等学校教頭）